

# ダライラマ13世の著作に見る 自称表現と政体表現の変遷について

石 濱 裕美子

## はじめに

清皇帝は草創以来、チベット・モンゴルと相対する際にチベットの仏教、モンゴルの歴史を尊重し、自らもその価値観を共有しながら両者との関係を構築した。しかし、19世紀後半に列強のアジア進出が加速すると、清政府内に領土・主権という概念が生じ、結果として清朝はチベット・モンゴルとの間に築かれていた伝統的な関係を壊し、植民政策をとるようになった。これに対してモンゴルとチベットは一斉に反発し、モンゴルにおいてはジェブツンダンパ8世がロシアに使節を派遣して独立への支援を求め、1911年12月1日に独立を宣言し、同月29日、ハルハの王侯はジェブツンダンパ8世をモンゴルの国王として推戴した。

チベットにおいても、ダライラマ13世トブテンギャムツォ (thub bstan rgya mtsho, 1876-1933) は1909年に清皇帝に奉呈された称号の使用を停止し、新たな称号を名乗り、1911年に辛亥革命によって清朝が減じると、中央チベットから中国軍を排除した。そして、1913年、ダライラマは亡命先の英領ダーズリンからラサに帰還すると、チベットの僧俗の貴賤にあてて布告をだし、その文中において「チベットと清朝皇帝の関係は高僧と施主という仏教の信仰を基礎にしたものであり、支配・被支配の関係ではなかったこと、清朝が仏教に悖る行為を様々に行ったこと、さらに清朝が倒れた今、中国との関係は切れた」ことを述べた。続いて、僧侶は仏教の伝統を堅持すること、俗人は公務に励み、殖産に努めるべきことなどが箇条書きで示された。本布告文はチベット政府でツイボンをつめたシャカッパの著書に引用され、シャカッパはこの文を清朝からの「独立宣言」としてした<sup>1)</sup>。

2013年は、ダライラマ13世によるこの「自立の布告」が発布されてから百年目を迎える年であったことから、亡命政府の所在地であるインドのダラムサラ、ニューヨークのチベットハウスなどで本布告文や蒙蔵条約をテーマとしたシンポジウムが開かれた。これらの場では、現代の国際法や国際関係学の視点から見て、「自立の布告や蒙蔵条約をいかに解釈、あるいは評価できるか」という論が大勢を占め、当時の文脈の中でダライラマ13世の当事者意識を解釈する研究はほとんどみられなかった。しかし、ある出来事について評価なり解釈なりを行うにはまず当事者の価値観、当事者意識を明らかにすることが大前提であることは言うまでもない。

そこで、本論ではダライラマ13世が自著の中で、清皇帝から奉呈された称号をどのように扱い、また、清皇帝やその政府をどのように表現していたのかを明らかにすることを通じて、ダライラマ

13 世の対中国認識を解明していくものである。

## 一、ダライラマの著作集

ダライラマ 13 世全集全七巻のうち、6 巻と 7 巻は 13 世の死後間もなくして編纂されたダライラマ 13 世の伝記であり、第 1 巻から第 5 巻まではダライラマ 13 世自身の著作が収められている。著作には、チベット語のアルファベットで **ka** から **dzi** までの 41 作品がナンバリングされており、その内訳は儀軌、寺規、密教・顕教の著作、布告文、書簡、祝詞（祈願文）などである。このうち、祝詞、書簡集、布告文集などは、いくつもの小さな文書の集合体であるため、作品の総数は数百にのぼる。

これらの著作のうち、数行の零細な著作を除けば、大半の著作には著作時の状況を記した序文かコロフォンがあり、その中にはかなりの割合で紀年がみられる。紀年のないものでも、著作がなされた地名がドメー（**mdo smad**）、モンゴル、中国、シッキム地域であった場合、ダライラマ 13 世の 1904 年から 1912 年の 8 年にわたる出御期間の滞在地であるため、著作時期をある程度絞り込むことができる。

ダライラマ 13 世の著作が全集に編集・開版される際に、意図的な変更が加えられた可能性は低いと思われる。その根拠としては、チベットと清朝の関係が良好な頃に清朝を称えていた表現が削除されていないこと、チベット仏教界では、経典からはじまり、高僧の言葉に至るまで、聖者の言葉は一言一句ゆるがせにせず引用する伝統があることなどによる。

ダライラマの自称表現の変化をたどるには、僧院への布告文を集めた **chi**、チベットの貴賤の僧俗にあてた布告文を集めた **ji** の両著作が、有用な情報を提供してくれる。1913 年の「自立の布告」はこの **ji** の布告文集に含まれるべき著作であるが、現存する全集の中にこの布告文は含まれていない。全集に含まれていないことを理由に、「自立の布告」を真筆でないと速断するのは、当該の布告を同年の別の布告と比較しても、内容や表現法に違和感がないこと、**ji** に輯録された布告文は時系列が乱れており倉卒に編纂された可能性を示していることなどから、危険であると思われる。

ダライラマが清朝やチベットの政体をどのように表現し、それがどのように変化したかについては **ti** に収められた新年の祝詞集が有用な情報を提供してくれる。これはダライラマ 13 世が 1899 年から 1933 年までの年頭に、チベット、とくにゲルク派の護法尊ベルテンラモ<sup>2)</sup> に捧げた祝詞を一つにまとめたものである<sup>3)</sup>。この他にも経典やタンカを新造した際に奉呈した祝詞を集めた **nyi** や、三依（仏像・仏塔・仏典）を修理・新造した際の祝詞集 **phi** からも多くの用例を見いだすことができる。このうち後者は紀年のある著作が多いため **ti** に次いで有用である。

## 二、ダライラマの自称称号の変化

ダライラマの清皇帝に対する認識の変化を量るには、ダライラマが清朝皇帝から奉呈された称号をどのように扱ったかが一つの指標となる。

ダライラマが初めて清皇帝から奉呈された称号は、ダライラマ 5 世が草創間もない清朝の宮廷を訪

れた際に順治帝から奉呈された「西天大善自在仏所領天下釋教普通瓦赤拉旦喇達頼喇嘛」号である。この称号の前半部「西天大善自在仏所領天下釋教」(西方の大いに善なる自在なる仏、天下の仏教を支配する者)は、明朝の永楽帝が永楽五年(1405)にカルマパ5世デシンシェクパに授けた「西天大善自在仏所領天下釋教」と同じであり(石濱裕美子 2001, p.130)、後半部の「瓦赤拉旦喇達頼喇嘛」(持金剛仏ダライラマ)は1578年にアルタン=ハンがダライラマ三世と青海で会合し、称号とそれを刻んだ印璽を相互に奉呈しあった際、アルタンがダライラマに奉呈したとされる *vcir-a dar-a dalai lam-a* 号と同じである<sup>4)</sup>。つまり清皇帝がダライラマに授けた最初の称号は、順治帝が明朝とチベット、並びにモンゴルとダライラマの伝統的な関係をリスペクトをしていたことを示すものとなっている。

ちなみに、ダライラマ 13 世は、1653 年当時ダライラマから順治帝に対して *gnam bskos 'jam dbyangs gong ma bdag po chen po* 「天の命によってその地位についた文殊大皇帝」号を授け、高僧と施主として互いに供養しあったという<sup>5)</sup>。1578 年にダライラマ 3 世がアルタン=ハンと会合した際には相互に称号を授受しあっており、康熙 29 年(1690)11 月にダライラマが清皇帝への称号奉呈を申し出て、清側が断わった記録もあるため(石濱裕美子 2001, pp.130-133)、1653 年当時、ダライラマ 5 世が清皇帝に称号奉呈を申し出ている可能性は十分にある。仮にこのダライラマ 13 世の証言が事実として確認された場合、順治帝とダライラマ 5 世の会見は、従来言われていた中華世界の冊封儀礼というだけでなく、チベット仏教世界における師檀の称揚儀礼と位置づけることもできる。

次に、1653 年の称号のチベット語訳の内容について検討しよう。順治帝がダライラマ 5 世に授けた称号のチベット語訳はダライラマ 5 世伝には以下のように記録されている。

*nub kyi lha gnas ches dge ba bde bar gnas pa'i sangs rgyas bka' lung gnam 'og gi skye 'gro thams cad bstan pa gcig tu gyur ba 'gyur med rdo rje 'chang rgya mtsho'i bla ma* (D5N-1, 209a6-b1)。

〔和訳〕西天大善自在仏のお言葉。天下の一切の人々の教えを一つにする方。不変・持金剛仏ダライラマ。

チベット語としては意味が非常にとりづらいため、一見して漢語の「西天大善自在仏所領天下釋教普通瓦赤拉旦喇達頼喇嘛」の直訳であることが分かる。さらに、漢語とチベット語訳の中の対応する単語を照らし合わせていくと、チベット語には *bka' lung* (お言葉) という漢語にない単語が入っていることに気づく(下線部)。

この *bka' lung* が入ることによって、漢語とチベット語でどのように意味が変わるかについて考えてみよう。

漢語では「西天大善自在仏」と「持金剛仏ダライラマ」は同格に見え、「ダライラマが西方の仏である」と受けとれる一方、チベット語訳では *bka' lung* が入ることによって、「西方の仏の勅命によって、天下の仏教を司るものに任じられたダライラマ」という意味になり、称号の権威が清皇帝よりも

仏そのものに帰している<sup>6)</sup>。

順治帝がダライラマに奉呈した称号は、ダライラマ 7 世の時代に新たなチベット語訳がつけられた（以下、順治新訳と略称する）。清皇帝がダライラマ 7 世に奉呈した金印の印面には以下のような新訳の称号が刻まれている。

〔順治新訳〕 nub phyogs mchog tu dge ba'i zhing gi rgyal dbang sa steng gyi rgyal bstan yongs kyi bdag po thams cad mkhyen pa badzra dh'ara t'a la'i bla ma'i tham ga (『西藏歴史档案薈萃』 1995, No.71-1 ~ 3; 『西藏歴代蔵印』 p.57).

〔和訳〕 西方の最高善の地の勝者王。地上の勝者のすべての教えの主。一切智者。ヴァジラダラ・ダライラマの印。

注目すべきは新訳の称号からは **bka' lung** が消え、結果としてこの称号の権威が称号の送り主の清皇帝に帰するようになってきていることである<sup>7)</sup>。

次に、この順治帝から贈られた称号を、ダライラマ 13 世がどのように扱っていたかを見ていきたい。

表 1 は、ダライラマ 13 世の自称表現を、布告文、寺規の序文などから抜き出して時代順に整理したものである。このうち表 1 の 3 ~ 5 はダライラマ 13 世が順治新訳を用いて、チベットの全僧俗、あるいは、特定の僧院の僧侶たちに対して布告を行った例である。表 1-6 も順治新訳の称号が用いられているが、「一切智者」(thams cad mkhyen pa) にあたる言葉が抜けている。この一作だけは寺規であり、布告文である他の史料と性格が異なることが影響しているのかもしれない。

ここで注目すべきは、表 1 の 3 から 7 の事例はすべてダライラマの称号の前に「大皇帝の命により」(gong ma chen po'i bka'i lung gis) を意味する言葉を冠しており、称号の権威が清皇帝に帰していることである。

即位直後のダライラマ 13 世が、自らの権威づけに清皇帝の称号を利用しチベット人にアピールしていたことは、13 世自身の文章からも見て取ることができる。以下は 1898 年の布告文（表 1-3）の本文からの引用である。文中の「閻浮提の劫の王」「天命によってその地位についた方」「地の梵天」とはいずれも清皇帝を指す修辭表現である。

〔私=ダライラマ 13 世は〕「閻浮提の劫の王、天の命によってその地位についた方、地の梵天」（清皇帝）と高僧と施主（師檀）の関係を太陽と月のごとくに結び、〔清皇帝は〕金冊・玉印などを奉呈する敬意を示す勅書と冊文とともに「地上のすべての仏教の主、頂きの飾り」として〔私

表 1

	史料の種類	史料の書かれた年	称号の種類	典拠	称号の権威の源泉
1	ダライラマ 5 世自伝中の順治帝の称号奉呈記事	1653?	順治旧訳	D5N-1, 209a6-b1	nub kyi lha gnas ches dge ba bde bar gnas pa'i sang s rgyas bka' lung
2	清朝からダライラマ 7 世に送られた金印の印面	1720?	順治新訳	『西藏歴代蔵印』 p.57	
3	ダライラマ 13 世が全チベット人に出した布告	sa khyi (1898)	順治新訳	D13S, vol. 4-ji, p.297-7	gong ma chen po'i bka' lung gis
4	ダライラマ 13 世が全チベット人に出した布告	sgyur byed (1899)	順治新訳	D13S, vol.4-ji, p.272-1 ~ 2	gong ma chen po'i bka' lung gis
5	ダライラマ 13 世がセラ大僧院に出した布告	sa phag (1899)	順治新訳	D13S, vol.4-ji, pp.367-6 ~ p.368-1	gnam bskos 'jam dbyangs gong ma bdag po chen po'i bka' lung gis
6	ダライラマ 13 世作 チョンゲーのチェンセル僧院の寺規	lcags glang (1901)	順治新訳	D13S, vol.4-chi, p.265-1 ~ 2	'jam dbyangs gong ma'i lung gis
7	ダライラマ 13 世作の クンブムの寺規	sa bya (1909)	順治旧訳と光緒 「誠順贊化」	D13S, vol.4-ji, pp.310-6 ~ 311-1	'jam dbyangs gong ma rgyal po'i lung gis
8	ダライラマ 13 世がチベット の神と人から奉呈された金印 の印面	sa bya (1909)	1909 年新称号	『西藏歴代蔵印』 p.64	'phags pa'i yul nas sangs rgyas gyi bka' lung
9	印面奉呈祝詞集の序文 の新称号表記	1909?	1909 年新称号	D13S, vol.4-ti, pp.595-7 ~ 596-1	'phags pa'i yul nas sangs rgyas gyi bka' lung
10	ダライラマ 13 世伝中の 1909 年新称号表記	1909?	1909 年新称号	D13S, vol.7-kha, p.174-1 ~ 2	'phags pa'i yul nas sangs rgyas gyi bka' lung
11	ダライラマ 13 世が全チベット 人に出した布告	chu glang (1913)	1909 年新称号	Shakabpa 1986, pp.219-220; Goldstein pp.60-61	'phags pa'i yul nas sangs rgyas gyi bka' lung
12	ダライラマ 13 世が全チベット 人に出した布告	bag med (1913) 12 月 3 日	1909 年新称号	D13S, vol.4-ji, p.285-6 ~ 7	'phags pa'i yul nas sangs rgyas gyi bka' lung
13	ダライラマ 13 世が全チベット 人に出した布告	chu po sprel (1932)	1909 年新称号	D13S, vol.4-ji, p.332-1 ~ 2	'phags pa'i yul nas sangs rgyas gyi bka' lung

に] 力を与えたのである<sup>8)</sup>。

このように、ダライラマは即位の直後は清皇帝の権威を積極的に利用していたものの、20世紀に入るとダライラマと清皇帝の関係は急速に悪化し、状況は一変する。1904年、英軍のラサ侵攻に追われてダライラマ13世がモンゴルへと脱出すると、清朝はダライラマを廃位した<sup>9)</sup>。1908年、ダライラマ13世は西太后と光緒帝の招きを受けて北京を訪問するも屈辱的な扱いは変わらず、黄寺に滞在したダライラマは、清朝の官吏の臨席なしには諸外国の使節と会うことを許されず（Teichman p.14）、宮中の席次においても屈辱的な扱いをうけた<sup>10)</sup>。さらに、西太后はダライラマ13世の称号から「天下の仏教を司る」という賛辞を外し、華夷思想に基づく「誠順贊化」という称号を加えて貶めた<sup>11)</sup>。

ダライラマとの会見直後に光緒帝と西太后が相次いで没したため、ダライラマ13世は北京を後にチベットに向かった。道中、ダライラマ13世はアムド（現青海省）のクンプム大僧院に立ち寄り、寺規を著したが、この際二つの称号を併記した（表1-7）。

一つは *nub kyi lha gnas ches dge bar bde bar gnas pa'i sangs rgyas kyi bka' lung, gnam 'og gi skye 'gro thams cad bstan pa gcig tu gyur pa 'gyur med rdo rje 'chang rgya mtsho'i bla ma*、つまり、前述した順治旧訳であり、もう一つは *gong ma rgyal po'i lung gis hrin hrin tsan hotwa nub phyogs snying rje chen po'i skyes bu sangs rgyas t'a la'i bla ma*（皇帝ハーンの命により、誠順贊化、西方大悲の人、仏ダライラマ）、つまり西太后から授かった称号を、華夷思想的な部分を音写にして、「皇帝の命により」という限定句をつけて併記したのである（DL13S, vol.4-ji, pp.310-6 ~ 311-1）。

ダライラマ13世が二つの称号を併記した理由については以下の様に推測できる。前述したように順治旧訳には「*bka' lung*」という言葉があり、ダライラマの称号は「仏」に奉呈されたことになり、かつ、「天下の仏教を司る」という光緒帝によって削られた尊称も含まれている。さらに、1913年以後、ダライラマは自らの称号の前には「聖地の仏の言葉により」（*'phags pa'i yul nas sangs rgyas kyi bka' lung*）という言葉を用い、中国由来の称号を二度と用いることはなく、1912年末頃からは袁世凱の称号奉呈の申し出も「自らの権威が中国に付与されるものでない」ことを理由に断っているため（小林亮介 2012, p.327）、この時期に順治旧訳を再び使用したことは、清皇帝の権威を否定することを目的としていた可能性は高いであろう。しかし一方では、華夷思想に基づく新称号を音写という形で併記したことは、ダライラマが清朝と関係を絶つ直前の、過渡期的なものであると位置づけられよう。

土鳥年（1909）11月11日に、五年ぶりにラサに帰還したダライラマ13世は、チベットの神と人から新しい称号を刻んだ金印を奉呈された（表1-8; D13N-kha, pp.173-4 ~ 174-4）。この印章は現存し印面にはインドのランチャ文字、チベット文字、パクパ文字の三体で以下の称号が彫られている<sup>12)</sup>。

'phags pa'i yul nas sangs rgyas kyi bka' lung rgyal dbang 'jig rten gsum mgon dus kun sa steng gi kun khyab (1) rgyal bstan yongs la mnga' dbang bsgyur ba (2) thams cad mkhyen pa 'gyur med rdo rje 'chang ryga mtsho'i bla ma lha mi yongs kyi spyi bos mchod pa'i yid bzhin dbang gi rgyal po'i phyag rgya. (3) (表 1-9; vol.4-ti, pp.595-7 ~ 596-1)

〔和訳〕 聖地からの仏のお言葉。勝者王・三世間の依怙尊・すべての時において地上のすべての仏教を司るもの。一切智者・不変・持金剛仏・海のラマ・天人と人すべてが頭上に供養する如意宝珠の王の御璽。

シャカッパ氏はこの御璽の奉呈を、「これは中国満洲皇帝の名ばかりの称号を捨てるという政治的な行動であり非常に重要なものである」と述べている (Shakabpa, p.164)。また、ダライラマ 14 世も 1913 年の「自立の布告」(表 1-11) に言及した中で、この称号の意義を以下のように述べている。

中国兵を〔チベットの外に〕追放している間に、ダライラマ〔13 世〕はインドから帰国され、「チベットは自主自強の (rang dbang rang btsan) 国家である」と宣言された。この宣言文書にはかつて〔チベットが〕中国と高僧と施主の関係にあった時、皇帝が献じてきた印璽ではなく、チベットの神と人が献じた金印が押された。かつて、チベットの文書のいくつかには、「皇帝の命令によってダライラマ」と言ったものを、〔13 世は〕「仏の命令により地上の仏教の主たるもの」と変更された (bstan 'dzin rgya mtsho 1965, pp.82-83; ダライ・ラマ『チベットわが祖国』1989, pp.118-119)。

筆者もシャカッパ氏、ダライラマ 14 世の主張の通り、新称号の名乗りは清皇帝との関係を絶つことを目的としていたと思う。

さらに言えば、清皇帝由来の印璽が満洲文字と漢字という中国支配色の濃い文字が含まれていたことに比し、1909 年の印璽は、ランチャ文字・チベット文字・パクパ文字というチベット仏教色の濃い三体で刻まれていたことも注目すべき点である。

チベット仏教の年代記、またはチベット年代記の影響下に成立したモンゴルの年代記によると、王家の歴史はインドに始まり、インドの王族の一人がチベットにわたり古代チベット王朝を開き、古代チベットの王の子がモンゴルにわたりチンギス・ハンの祖先になったと記し、王統の権威を仏教の伝播に関連づけて説く。つまり、ランチャ、チベット、パクパの三体はそれぞれインド、チベット、モンゴルの仏教文化を代表する文字であるため、この三体を用いることには、清皇帝の権威を消し、インド由来の仏教の権威を復活させる意図があったことは明白である。

ダライラマは、この新しい印璽を捺印した印面をチベットで最も古い二つの寺院トゥルナン、ラモチュェの本尊である両釈迦牟尼像にそれぞれ捧げ、これを皮切りに中央チベットの歴史ある聖所（仏像・仏塔）に祝詞とともに奉呈した。D13-ti の著作の中に含まれるこの祝詞集の序文には以下のような

に記されている（表 1-9）。

「白蓮手」（観音）の 13 世である私は、師や弟子たちとともに、仏教と衆生のためにモンゴルの地に行った。そのあと、北京の黄金宮において皇帝と皇太后に何度か会見するなど、公私ともに肯定的な風向きになってきた中、土の鳥の年（1909）にチベットに行き、王座に即いた。この時、チベット地域のすべての神と人が、報恩の奉呈品として、縁起をよくするために、黄金の印璽「如意王」を献じたので受け取った。その時、歴史的に由来のある各本尊に、印璽の初捺印、カター、祝詞を捧げた。これを一カ所にまとめた「耳に心地よく意味も素晴らしいベマラカの花輪」というもの（D13-ti p.595-1~3）<sup>13)</sup>。

本題の下に集められた印璽関連の祝詞は約 23 作品あり<sup>14)</sup>、一つの祝詞が複数の聖所に捧げられている場合もあるため、実に 30 カ所以上の聖所にこの印影は奉呈されている。この祝詞の数は 1895 年の即位の年よりも、1900 年にダライラマがペンデンラモの聖地ラモイラツォ（lha mo'i bla mtsho）を巡礼した際の祝詞数よりも多く、この新しい称号と印璽がダライラマ 13 世にとって、画期的な意味を持つものであったことを示している。

新称号を名乗って以後、ダライラマの自称はすべて「聖地からの仏のお言葉」を冠するようになった（表 1-8~13）<sup>15)</sup>。

### 三、ダライラマによる清朝とチベットの政体に関する表現の変化

次に、ダライラマ 13 世が新称号を受けた 1909 年、あるいは 1911 年に清朝が崩壊した後にチベットや中国の政体に対する言及がどのように変化したか、またはしなかったのかについて検討する。

史料紹介の箇所ですべてのように、ダライラマの政体表現の変化については、D13-ti 中のペルテンラモに捧げられた祝詞集が有用な情報を提供してくれる。ちなみに祝詞の構造と内容は毎年ほぼ同じで、大きくは「仏教の興隆と衆生の幸せ」すなわち菩薩の祈りであり、それに関連して仏教を護持する者たち、すなわち施主や僧侶たちの長寿と繁栄や、出家僧たちが戒律を清浄に護り心一つにすることが祈られ、最後にすべての王国の安寧が祈られる。さらに、以上の一般的な祈願を下敷きにした特殊な祈願として、仏教の中でもとくにゲルク派（黄帽派）の発展、仏教を護持するものの中でもとくにダライラマである自分と高僧たちの長寿と悪縁の消滅、さらに仏教を保護する政府であればとくに政教一致のチベット政府ガンデン宮の繁栄と中国の皇帝の長寿、衆生であればとくにチベットに住む人々の幸せが、毎年少しずつ修辭を変えて祈られる。

表 2 はダライラマが年頭にあたってチベットの護法尊ペルデンラモに捧げた祝詞集（D13 vol.4-ti）の文中からチベット政府・中国政府に関する用例を抜粋したものである。祝詞は仏の五智を象徴する五色のカターとともに捧げられるため、韻文はそれぞれ白・黄・赤・青・緑の五部分に分かれている。

表 2

	D13-ti 典拠	著作 年	祝詞を捧げる対象	政体表現箇所（太字は中国皇帝を指す）
1	p.544-1	1899	lha mo 像に新年祈願*1	
2	p.548-4	1900	lha mo 像に新年祈願	
3	p.550-4		yer pa zla ba phug のパドマサン バヴァ像*2	<b>gnam bskos sa yi tshangs pa'i</b> chab srid dang, dga' ba brgya phrag ldan pa'i chab srid bcas, mna' srol rgyun lugs bzang lhun 'grub ngos,
4	p.552-7	1900	以下、5 から 18 までは、chos 'khor rgyal の lha mo 巡礼*3 の道 中に各地の聖所に捧げた祝詞。	
5	p.553-1		dga' ldan のツォンカバ供養塔*4	(赤) dga' ba brgya ldan sde bzhi'i chab srid rnams, dbyar kyi chu gter ji bzhin yar 'gran shog.
6	p.556-7		chos 'khor rgyal 僧院の lha mo	(黄) <b>gnam bskos sa yi tshangs pa'i</b> sku tshe bsrings, chab srid dge mtshan yar rgyas 'phrin las mdzod.
				(青) dga' ba brgya ldan chab srid mnga' thang rnams, sngon gyi bka' dam ji bzhin g-yel med skyongs.
7	p.560-2		chos 'byung shod rdor legs*5	(赤) dga' ba brgya ldan chab srid mna' bo'i srol, lugs bzang mi nyams sor chud yun gnas mdzod.
8	p.563-1		rin chen sgang の mkhas grub nor bzang 像*6	(青) <b>gnam bskos sa yi tshangs pa'i</b> sku tshe brtan, chab srid mnga' thang dbyar mtsho ltar 'phel shog,
				(緑) brgya ldan sde bzhi'i chab srid dpal yon rnams, bla nas blar 'phel che rgu'i dbus mthor shog.
9	p.563-7		zangs ri mkhar dmar の ma gcig lab sgron ma*7	(青) <b>gnam bskos tshangs pa'i</b> chab srid dang dga' ldan, yon mchod chab srid zung 'brel mdza' bshes shog.
10	p.564-5		gdan sa thil の phag mo grub pa 像*8	(青) dga' ba brgya ldan sde bzhi'i dge mtshan rgyun, tshangs pa'i ral klung ji bzhin chad med shog.
11	p.565-4		brom stod gnyan mgon 窟の四面 マハーカーラ*9	<b>gnams bskos tshangs pa'i</b> sku tshe chab srid rgyas, brgya ldan chab srid sde bzhi yar zlar 'gran.
12	p.566-1		khra 'brug の大日如来*10	(赤) bskal pa'i mnga' bdag sku tshe lhun po yi, mched zlar brtan nas chab srid mthar rgyas shog.
				(青) dga' ba brgya ldan lugs brgya'i dpal yon kun, mi nyams dbyar mtsho'i dpal la co 'drir shog.
13	p.567-1		'prhul snang, ra mo che, bsam yas の釈迦像*11	(黄) <b>gnam bskos rgyal po'i</b> yon tan sku tshe 'phel, chab srid 'dod rgu'i gter chen gong 'phel ngos,
				(青) dga' ba brgya phrag ldan pa'i chab srid kyi, phun tshogs sde bzhi'i dpal yon mnga' thang tshogs,
14	p.568-5		bsam yas dkar me khang の毘沙 門天	(赤) <b>gnam bskos tshangs pa'i</b> dpal 'byor mnga' thang tshogs, mi 'dzad nam mkha' mdzod kyi dngos grub stsol.
				(青) dga' ba brgya ldan sde bzhi'i dpal yon rnams, rnam rgyal bang mdzod ji bzhin dngos grub stsol.

15	p.569-5		bde chen gsang sngags mkhar の六臂マハーカーラ <sup>*12</sup>	(×白→赤) <b>gnam bskos sa yi tshangs pa'i</b> chab srid tshogs, mi mthun phyogs las rnam rgyal 'phrin las mdzod.
				(青) brgya ldan bstan srid lugs bzang mnga' thang dang, dpal 'byor legs brgya yun gnas 'phrin las mdzod.
16	p.570-6		ランチュンガデンとポタラの世自在 <sup>*13</sup>	<b>gnam bskos tshangs pa'i</b> sku tshe chab srid dang, brgya ldan chab srid lhun po'i mched zlar brtan.
17	p.571-5	1900	gnas chung lcog の sku lnga <sup>*14</sup>	dga' ba brgya ldan chab srid sde bzhi'i dpal, gong du spel la g-yar dam ji bzhin mdzod.
18	p.572-3		mal dro kab tshal の四臂マハーカーラ	(黄) <b>gnam bskos tshangs pa'i</b> sku tshe chab srid dang, mnga' thang legs tshogs nam mkha'i mthar rgyas shog.
				(青) dga' ba brgya ldan chab srid dpal yon rnam, mi nyams srid rtser sgreng pa'i 'phrin las mdzod.
19	p.573-6	1902	lha mo 像に新年祈願	(白) <b>gnam bskos sa'i tshangs pa</b> , dga' ba brgya phrag ldan pa'i chab srid bcas, mi nyams phyogs dus kun tu rab rgyas te,
20	p.576-3	1903	lha mo 像に新年祈願	(赤) <b>gnam bskos tsi na'i rje</b> yi chab srid dang, dga' ba brgya phrag ldan pa'i chab srid bcas, sde bzhi'i dbu rmog btsan po gong 'phel ngos,
21	p.578-5	1904	lha mo 像に新年祈願	(赤) <b>gnam bskos tshangs pa'i</b> sku tshe chab srid rgyas, dga' ba brgya ldan chab srid dbu rmog btsan.
22	p.579-7	1904	dga' ldan のツォンカバ供養塔	(赤) <b>ci na'i rje bo</b> rim byon sku tshe bstan (ママ), mdzad 'phrin chab srid mnga' thang rgyas pa dang, dga' ba brgya phrag ldan pa'i lugs zung gi, chab srid dbu rmog btsan po yun du brtan.
23	p.582-3	1905	lha mo 像に新年祈願	(赤) <b>gnam bskos tshangs pa'i</b> sku tshe chab srid brtan, dga' ba brgya ldan lugs bzang sde bzhi'i dpal, cha tsam mi nyams bla nas blar 'phel so.
24	p.583-7	1906	lha mo 像に新年祈願	(赤) <b>ci na'i rje bo'i</b> sku tshe chab srid bstan (ママ), brgya ldan lugs zung chab srid sde bzhi'i dpal, mna' bo'i srol bzang bla nas blar 'phel zhing,
25	p.586-5		sku 'bum のツォンカバ誕生塔 <sup>*15</sup>	(赤) <b>sa yi tshangs pa'i</b> tshe bsod rigs brgyud 'phel, chab srid 'khor los bsgyur bzhin kun tu dbang, dga' ba brgya phrag ldan pa'i lugs zung gi, mna' bo'i srol bzang sde bzhi'i dpal yon rnam, gong du 'phel ba'i lugs gnyis 'bar gyur cig.
26	p.589-7	1907	lha mo 像に新年祈願	(赤) <b>stobs kyis 'khor bsgyur ci na'i rje bo</b> yi, sku tshe chab srid mnga' thang lugs bzang 'phel, dga' ba'i dpal ldan brgya phrag chab srid kyi, sde bzhi'i dpal yon yar nas yar 'gran ngos,

27	p.591-4	1908	lha mo 像に新年祈願	(青) <b>stobs kyis mnga' dbang sgyur ba'i rtsi na'i rje'i</b> , sku tshe chab srid mnga' thang mi 'gyur brtan, dga' ba'i dpal ldan lugs bzang stobs 'byor rgyas, bsam sbyor ngan pa'i pha rol bdud sde'i tshogs, mngon spyod drag pos thal bar brlag par mdzod.
28	p.593-3	1909	lha mo 像に新年祈願	(赤) <b>gnam bskos tshangs pa'i</b> sku tshe chab srid brtan. (青) dga' brgya'i dpyid ldan lugs zung gdugs dkar po, chab srid sde bzhi'i dga' ston ba dan 'phyar.
29	p.596-2		'phrul snang, ra mo che の本尊の 釈迦像*16	(赤) <b>bstan pa'i yon mchod tsi na'i rje</b> , sku tshe yun brtan chab srid mnga' thang rgyas. (青) dga' ba brgya yi gna' srol kun rdzogs pa'i, sde zhi'i mnga' thang dpal 'bar chab srid cher ~
30	p.598-6		ポタラの世自在仏とランチュン ガデン	(赤) dga' ba brgya phrag ldan pa'i chab srid kyi, gna' srol dbu rmog btsan po ches dar zhing,
31	p.601-1		dga' ldan のツォンカバ供養塔	(赤) dga' ba brgya phrag ldan pa'i chab srid kyi, sde bzhi'i dpal 'byor mnga' thang longs spyod rnam, ~ gong 'bran shog.
32	p.605-6		ダライラマ 5 世供養塔*17	(黄) <b>gnam bskos rgyal po'i</b> sku tshe chab srid dar. (青) dga' brgya'i dpal 'bar sde bzhi'i chab srid btsan.
33	p.607-7		nor gling*18 の主尊六臂マハー カーラ	(赤) dga' ba brgya ldan ba'i, pho brang chen po'i chab srid der, ma rung bdud kyis mi tshugs par, sde bzhi'i dpal yon yar rygas shog.
34	p.612-7		gnas chung の gro sdod	(赤) dga' ba brgya phrag ldan, chab srid srol bzang rgyal thabs che, rgyal phran kun gyi spyi bo ru, mngon par mdzes pa'i dpal thob shog.
35	p.614-4	1910	lha mo 像に新年祈願	(赤) <b>tsi na'i rje bo'i</b> sku tshe brtan, sde bzhi'i dpal rabs chab srid mnga' thang rgyas. (青) dga' ba brgya phrag dpal 'bar ba, ~ chab srid lugs bzang dkar 'jam gdugs dkar pos, chos 'bangs ci mchis bde dger ngal 'tsho shog.
36	p.616-3	1910	ネパールの bya rung kha shor 仏 塔*19	dga' brgya'i dpal, mnga' ba'i chab srid btsan pa'i dpung, gna' bo'i lugs bzang khyon 'degs shog.
37	p.617-1		ネパールの shing kun 仏塔, 捨 身飼虎の地*20	dga' brgya'i chab srid dbu rmog btsan po dang,
38	p.617-5		ネパールの shing kun 仏塔	<b>sa yi bdag po'i</b> bzhed don skong gyur cig.
39	p.619-4	1911	lha mo 像に新年祈願	(赤) <b>gnam bskos rje bo'i</b> sku tshe chab srid 'phel, dga' ldan pho brang lugs zung btsan po'i khrims, ~ sde bzhi'i dpal yon bla nas blar 'phel shog.

40	p.621-3	1912	lha mo 像に新年祈願	(赤) <b>ci na'i rje bo'i</b> sku tshe mnga' thang rgyas, gnam bskos dga' ba brgya ldan pho brang che'i, mes dpon gsum gyis srol btod chos srid khirms, ~ mthu nus stsol. (青) rgyal bstan de 'dzin dga' ldan chab srid de, chos 'byor dpal yon dar la 'gran mi bzod.
41	p.623-1		bstan ma bcu gnyis *21	gnam bskos dga' ba brgya ldan pa'i sde bzhi'i chab srid 'jig rten mes po'i mnga' thang ltar yar rgyas ngos,
42	p.623-6		sna rtse rdzong の本尊 ye shes mgon po *22	gnam bskos dga' ba brgya ldan pho brang che, lugs gnyis mes po'i chab srid gna' bo'i srol, sde bzhi'i dpal yon dar dang lhan cig tu ~
43	p.625-4		stag lung の gza' mchog rgyal po'i 息子の化身 *23	dga' ba brgya phrag rtsen pa'i pho brang 'di'i, lugs zung chab srid dge bcu'i khirms dar zhing,
44	p.627-3		bsam 'grub chos sding dgon の集会殿の釈迦像	(青) dga' ba brgya ldan pho brang 'dir, ~ chab srid sde bzhi'i mnga' thang dpal 'bar bas,
45	p.629-2	1913	lha mo 像に新年祈願	(赤) gnam bskos dga' ba brgya'i, lugs zung chab srid mes dbon rnam gsum gyi, ~ sde bzhi'i mnga' thang dbyar mtsho ltar bsnyegs shog.
46	p.631-2	1914	lha mo 像に新年祈願	(赤) gnam bskos dga' ba brgya ldan pho brang che'i, lugs zung dbu rmog btsan po bla mthor bsnyegs.
47	p.632-7	1914	bsam yas の rgyal btsan	gnam bskos dga' brgya'i sde bzhi'i chab srid kyi, dbu rmog btsan dang mnga' thang bla mthor bsnyegs.
48	p.634-1	1915	lha mo 像に新年祈願	(赤) dga' ldan pho brang phyogs las rnam rgyal zhes, gnam bskos lugs zung btsan po'i chab srid che.
49	p.635-7	1916	lha mo 像に新年祈願	(青) dga' ba brgya phrag dpal ldan chab srid che'i, dbu rmog bla mtho lugs zung khrim btsan zhing,
50	p.638-2		dga' ldan のツォンカバ供養塔	(青) dga' ba brgya phrag ldan pa'i chab srid kyi, sde bzhi'i dpal yon mes po'i lugs 'gran shog.
51	p.639-5	1917	lha mo 像に新年祈願	(青) sde bzhi'i dpal mnga' dga' brgya'i chab srid cher, nyer 'tshe'i rgud tshogs kun zhi'i 'phrin las mdzod.
52	p.641-5		ネパール三仏塔	gnam bskos dga' brgya'i lugs zung chab srid che, ~ sde bzhi'i dbu rmog gtsan pos khyon kun dbang,
53	p.643-3	1918	lha mo 像に新年祈願	(青) gnam bskos dga' ba brgya ldan lugs zung gi, sde bzhi'i chab srid dbu rmog btsan po nyid,
54	p.645-6	1919	lha mo 像に新年祈願	(青) gnam bskos dga' brgya'i lugs zung chab srid che, ~ sde bzhi'i mnga' thang longspyod dbyar mtsho ltar,
55	p.647-7	1920	lha mo 像に新年祈願	(青) gnam bskos dga' ba brgya phrag ldan pa yi, lugs zung sde bzhi'i chab srid mnga' thang la,
56	p.650-2	1921	lha mo 像に新年祈願	(青) dga' ldan chab srid mes dbon rnam gsum sogs, sa skyong rgyal po'i thugs bskyed ji bzhin du, sde bzhi'i mnga' thang bla nas blar 'phel shog.

57	p.652-3	1922	lha mo 像に新年祈願	(青) gnam bskos dga' ba brgya ldan chab srid che.
58	p.654-5	1923	lha mo 像に新年祈願	(青) gnam bskos dga' ba brgya ldan chab srid che'i, lugs bzang dbu rmog btsan po srid rtser bsnyegs.
59	p.656-5	1924	lha mo 像に新年祈願	(青) gnam bskos dga' ba brgya ldan pa'i, lugs gnyis chab srid mnga' thang sde bzhi'i dpal,
60	p.658-4	1925	lha mo 像に新年祈願	(赤) gnam bskos dga' ba brgya ldan chab srid che'i, sde bzhi'i dbu rmog btsan po dgung du reg.
61	p.660-5	1926	lha mo 像に新年祈願	(赤) gnam bskos dga' ba brgya ldan pho brang che'i, lugs zung chab srid dbu rmog dgung du reg.
62	p.662-6	1927	lha mo 像に新年祈願	(青) dga' ba brgya phrag dpal ldan chab srid cher,
63	p.665-1	1928	lha mo 像に新年祈願	(青) gnam bskos dga' ba brgya ldan chab srid cher, ~ sde bzhi'i mnga' thang srid rtse'i dgung bsnyegs shog.
64	p.667-3	1929	lha mo 像に新年祈願	(青) gnam bskos dga' ldan pho brang pa'i, chab srid lugs gnyis dgung mkhar 'degs pa la, ~ chos ldan sde bzhi'i dpal yon rab 'bar shog.
65	p.669-4	1930	lha mo 像に新年祈願	(青) gnam bskos dga' ba brgya ldan gyi, chab srid phun tshogs 'dod rgu'i gter chen pos,
66	p.671-5	1931	lha mo 像に新年祈願	(青) gnam bskos dga' ba brgya ldan pa'i, chab srid dar gyi mdud pa mi lhod cing,
67	p.674-1	1932	lha mo 像に新年祈願	(青) gnam bskos dga' brgya'i chab srid la, bsam sbyor log par 'khu ba'i dgra sde'i rigs, ming gi lhag mar thal bar brlag par mdzod.
68	p.676-3	1933	lha mo 像に新年祈願	(青) gnam bskos dga' ba brgya ldan lugs zung gi, chab srid dbu 'phang btsan po bla mthor bsnyegs.

表 2 注

- \*1 ダライラマは毎年年初、寝所にかけたペルテンラモのタンカ (軸装されたチベット仏画)、ラモスンチョンマ (lha mo gsung byon ma) に祈願を立てることを恒例とする。
- \*2 イェルパ (yer pa < brag yer pa) の月窟 (zla ba phug) とは、チベット密教の開祖パドマサンバヴァの修行地 (Petech, notes 95-96)。
- \*3 チューコルゲル (chos 'khor rgyal) 僧院はダライラマ 2 世が 1509 年にメトータン (me tog thang) の谷に建立した僧院で、この僧院近くにあるラモの宿る聖湖もダライラマ 2 世が開いた聖所である (Petech, note 206)。
- \*4 ガンデン大僧院 (dga' ldan) はツォンカパが 1409 年に建立したゲルク派の本山。ツォンカパはここで遷化しその遺骸を取めた金の供養塔がある (Petech, notes 107-108)。
- \*5 chos 'byung shod は不詳。rdor legs は世間内の護法尊 rdo rje legs pa の略称 (Nebesky pp.164-159)。
- \*6 ケドゥブノルサンギヤムツォ (mkhas grub nor bzang rgya mtsho, 1423-1513) は 35 才でガンデン大僧院で具足戒を受け、37 才でリンチェンカン (rin chen sgang) などで四年間隠遁修行をした。
- \*7 サンリカルマル (zangs ri mkhar dmar) は 11 世紀の女性行者マチクラブドンマ (ma gcig lab sgron ma) の住所である (Petech, pp.47-48, notes 197-198)。
- \*8 デンサテル (gdan sa thil) はバグモドゥ=カギユ派の開祖バグモドゥパ (phag mo grub pa, 1110-1170) が 1158 年に建立した寺 (Nebesky, p.47, notes 194-195)。

- \*9 ドムトゥー (brom stod) はラサの東方のキチュ河の辺にあり, 11 世紀のニエン翻訳官の住窟の中にある出世間の護法尊, 四面マハーカーラ像で名高い (Petech, p.43, notes 100, 106)。四面マハーカーラについては Nebesky, pp.60-62 参照。
- \*10 タドゥク (khra 'brug) は開国の王ソツェンガムポが羅刹女を封じるために建てた 12 寺の一。五仏が祀られていたので, 大日如来はその中尊であろう (Petech, notes 237-239)。
- \*11 トウルナン ('phrul snang) はソツェンガムポ王のネパール妃が建てた通称チョカン (jo khang), ラモチェ (ra mo che) は中国妃が立てた寺である。サムイエ (bsam yas) はティソンデツェン王により建立されたチベット初の僧院である。
- \*12 サンガクカル (gsang sngags mkhar) はラサの東方のキチュ河の辺にあるデチェンゾン (bde chen rdzong) にあるゲルク派の僧院。六臂マハーカーラについては Nebesky, pp.38-39 参照。
- \*13 ソツェンガムポ王がネパールの仏師に自らをモデルに十一面観音菩薩像を作らせようとし, 仏師が菩提樹の枝, 八大聖地の土など五つものを積んで一夜明けると, 十一面観音像が自然に完成していた。この観音像は「五つものが合わさった自然にできた像」(rang byung lnga ldan) と言われトウルナンに祀られた (GSM, p.137)。ポタラの世自在とは, ソツェンガムポの化身がインドに飛んで, 南海の砂の下から掘り出した梅檀の木から自然に現れた四体の世自在観音像の一つ (GSM, pp.78-84)。
- \*14 gnas chung lcog < gnas chung sgra dbyangs gling. デブン大僧院の麓にあるベカル神を降ろすシャーマンが駐留する祠 (Nebesky, p.444-454)。五尊 (sku lnga) とはベカル神の五眷属を指す (Nebesky, pp.107-115)。
- \*15 クンブム (sku 'bum) はゲルク派の開祖ツォンカパ誕生の地に 1588 年, ダライラマ 3 世が建てた僧院。
- \*16 29 ~ 34 番は 1909 年の新印璽の初押しを捧げた際の祝詞。
- \*17 ポタラ赤宮内にあるダライラマ五世の遺骸を取めた供養塔。5 世の摂政サンゲギャムツォが 1697 年に完成させた。
- \*18 nor gling < nor bu gling ka. ダライラマの夏の離宮。
- \*19 bya rung kha shor とは, カトマンドウの Boudhanath 仏塔のチベット名。ティソンデツェン王, パドマサンバヴァ, シャンタラクシタ三人が前世に建立したものとされる
- \*20 シンクン (shing kun) とはカトマンドウの Swayambhunath 仏塔のチベット名。捨身飼虎 (stag mo lus sbyin) とは釈尊が過去世において飢えた虎に身を捧げたといわれる故事。カトマンドウ郊外の Namu Buddha という地がその場所であるとされる。
- \*21 世間内の十二護法女尊 (Nebesky, pp.181-198)。
- \*22 sna rtse < sna dkar rtse. 智慧のマハーカーラ は Nebesky, pp.44-47 参照。
- \*23 最高の宿曜 (gza' mchog) とは, 日食や月食を起こすと考えられた, 羅喉星のこと (Nwbesky, p.259)。

文章の横にある色はその色のカタールを捧げた際に述べられた一文である。

表 2 に基づいて, 清皇帝の同義語を確認すると gnam bskos (天の命によってその座についた方, 表 2; 3, 6, 8-9, 11, 13-16, 18, 19-23, 28, 32, 39), sa yi tsangs pa / tshangs pa (地の梵天 / 梵天, 表 2; 3, 8-11, 14-16, 18-19, 21, 23, 25, 28), ci na'i rje bo (支那の王, 表 2; 20, 22, 24, 26, 27, 29, 35, 40), stobs kyis 'khor bsgyur / stobs kyis mnga' dbang sgyur ba (力の輪をまわす者=鉄輪王, 表 2; 26, 27), などの言葉で修辭されている。国名がはっきり明示されているのは支那 (ci na / tshi na / rtsi na) だけであるが, 他の同義語も清皇帝を指していることは, これらの言葉がチベット政府と対句になっていること, シナの王と同格に扱われていることより明かである。

対するチベット政府は, 「諸方に勝利した喜びを持つ (兜率) 宮」を意味する「ガンデン・ポタン = チョーレー・ナムゲル」(dga' ldan pho brang phyogs las rnam rgyal) を正式名称とし, 「百の喜び

を持つ宮」(dga' ba brgya phrag ldan pa pho brang) が表現としては一番多く用いられている。この政府の述語となるのは、政教一致 (chos srid / lugs zung), 法王父祖 (chos rgyal / mes) の古法 (gna' srol), 四種類の栄光 (sde bzhi'i dpal 'byor)<sup>16)</sup> などの言葉である。

表 2 から明らかとなる事実を以下に箇条書きにしてみよう

- (1) 中国皇帝の長寿や政の繁栄は必ずガンデン・ポタン（チベット政府）の繁栄と対にして祈願されている。その場合、一行の中でガンデン宮と中国皇帝の政が両方言祝がれている場合（表 2; 3, 9, 11, 16, 19-27, 39, 40）、別の聯でそれぞれ言祝がれている場合（表 3; 6, 8, 12-15, 18, 28-29, 32, 35, 40）と二通りある。
- (2) ガンデン宮、すなわちチベット政府の繁栄が単独に祈願されることはあっても（表 3; 5, 7, 10, 17, 30-31, 33-34, 36-37, 41-68）、清皇帝の長寿や清政府の繁栄が単独で祈られることはない<sup>17)</sup>。
- (3) 「〔シナの〕王の長寿」と「〔シナの〕王の政」は言祝がれても、「王」を抜いた「シナの政」という表現は存在せず、皇帝個人との関係が強調されている。
- (4) 1913 年を境に清皇帝の長寿やその政の繁栄を言祝ぐ文章が消え、ガンデン宮の繁栄を祈る文のみとなる。そして、1913 年以前に清皇帝の政を修飾していた gnam bskos などの修飾語は 1913 年以後はチベット政府に用いられるようになる。

D13-ti から読み取れる以上の項目は、ダライラマが仏像・仏典・仏塔を落慶・修理した際の祝詞集 D13-phi に見られる用例の性格とも一致する。

## 結論

ダライラマ 13 世は 1909 年以前は清皇帝から奉呈された称号を用いていたものの、1909 年を境に自らの称号の権威の源泉を仏へと切り替え、印璽の印面からも満洲語・漢語を消し、インドのランチャ文字・チベット文字・パスパ文字と仏教伝播の歴史にそった三体の文字を用いるようになり、中国由来の称号を用いることは二度となかった。

また、中国の政体に関するダライラマ 13 世の表現を見ると、1913 年以前において、ダライラマ 13 世はチベット政府と清皇帝を対句で称えていたが、1913 年以後は、チベット政府のみを称えるようになった。さらに言えば、清皇帝との関係が比較的良好であった 1913 年以前から、「シナの王の政府」と「ガンデン宮=チベット政府」が対句になっていることは、ダライラマは清をあくまでもチベット政府と別個の政体としてとらえていたことの証左となる。これは近年小林（2012）がダライラマ 13

世の書簡などにに基づき、「当時、ダライラマ 13 世は清皇帝を施主とは思っても支配者とはみなしていなかった」との指摘とも合致する。また 13 年以後、ダライラマの祝詞から中国の政府に対する言及がなくなることは、ダライラマはチベットと中国（中華民国）の間には清朝との間に築かれたような施主と高僧の関係が存在しないと考えていたことを示している。

## 注

- 1) Shakabpa 1976, pp.219-223; シヤカッパ, pp.304-30; Goldstein, pp.60-61 参照。本稿ではこの布告を、その内容に即して「自立の布告」と仮称する。
- 2) dpal ldan lha mo. ラサの中央にあるトゥルナンの最上階に祀られ、ダライラマの守護尊でもあるゲルク派の神階層の中の最高神 (Nebesky, pp.22-37)。
- 3) ti にはこの外にも、1900 年にダライラマがベルテンラモの聖地を巡拝した道中に各地の聖所に奉った祝詞や 1909 年に新印璽を作った際、その初捺しを中央チベットの各聖所に捧げた祝詞も収められている。
- 4) 『アルタン・ハーン伝』(ES) によると、アルタン・ハーンがソナムギャムツォに称号と金印を奉呈した後、ソナムギャムツォの呼称は *vcir-a dar-a dalai lam-a* となる (ES 226, 233, 236, 237, 240, 241, 246, 296, 306, 318, 331, 338, 341, 356, 375; 石濱裕美子 2001, chp. 4, note 19, pp.140-141)。
- 5) 「偉大なる 5 世親下も順治ダライハーンに対し、天の命によってその地位についた者・文殊大皇帝と、文殊大皇帝からも〔ダライラマ 5 世に〕「西天大善自在仏所領天下釋教普通瓦赤拉旦喇達頼喇嘛」という称号を授かった (*gong sa lnga pa chen pos kyang shun tsi d'a las rgyal por, gnam bskos 'jam dbyangs gong ma bdag po chen po zhes dang, 'jam dbyangs gong ma bdag po chen po nas kyang, nub phyogs mchog tu dge ba'i zhing gi rgyal bstan yongs rdzogs gyi bdag po badzra dhara t'a la'i bla ma zhes mchod yon phan tshun bkur res gus 'dud mchod yon gyi lar rgya bsam mi khyab pa'i ngo mtshar* (D13 vol.4-thi, pp.724-4-6)。
- 6) チベット語訳に従い「ダライラマは仏の言葉によって全仏教の支配者の座についた」ととらえる場合、「紀元前のインド（西天）の仏がなぜ 17 世紀のダライラマを天下の仏教の指導者に任命できるのか」という疑問が生じる。その疑問に対する一つの答えとしては、ダライラマの本性である観音菩薩が、仏が涅槃に入る間際にチベットの地に仏教を広めるように遺囑されたという故事をあげることができる。ダライラマ 5 世の摂政サンゲギャムツォ (*sangs rgyas ryga mtsho*) は歴史・天文学・医学に関する多くの著作を残し、それらはそれぞれの分野で基準的な作品となった。このうち 1697 年に記された『閻浮提の一つの飾り』(DGC) には、様々な聖典の言葉を引用してダライラマの王権を理論づけている。これらの引用文の中に『函経』(*za ma tog bkod pa'i mdo*) 最終章 13 章から「仏が臨終の際に、自分が教化に及ばなかった北方の有雪の国については、観音菩薩に任せた」という旨の一文を引いている (DGC, p.81)。ダライラマ 13 世は 1913 年の自立の布告の中でチベットを「自らの護るべき地」と記すなど、観音菩薩としてのアイデンティティを強く打ち出しているため、「仏の言葉により」という表現も、「仏の観音菩薩に対する遺言」を指す可能性がある。
- 7) ちなみに、ダライラマの称号はモンゴル語訳においても新旧で訳が変わっており、チベット語 *bka' lung* にあたる言葉もチベット語と微妙に異なった解釈を行っている。まず、ダライラマの称号のモンゴル語訳の新旧の比較を挙げると、順治 10 年 3 月 3 日と順治 14 年 6 月 24 とに出された詔勅においてダライラマの称号のモンゴル語訳は *baraγun etegedün ülemji sayin amuγulang tu burqan u/i, delekei deki burqan u surγaγuli yi ergilegsen, qamuγ i medegci wajir-a dar-a dalai lam-a* (『西藏歴史档案薈萃』No.35-1; 『清宮珍藏歴世達頼喇嘛档案薈述』pp.10-11) と、やはり漢語の直訳である。一方、ダライラマ 7 世の金印に見えるダライラマの称号のモンゴル語訳は、*örtün-e jüg ün yeke öljeitü erketü burqan u orun, delekei deki u burqan u shasin i ergilegci qamuγ i medegci wacir-a dar-a dalai blam-a yin tamγ-a* (『西藏歴史档案薈萃』No. 71-1 ~ 3; 『西藏歴代蔵印』p.57) と、ややこなれた形になっている。満洲語については順治年間の訳がなく、ダライラマ 7 世の金印では *wargi abkai amba sain jirgara focihi i abkai fejergi focii i taihiyan be aliha eiten be saca wajira dara dalai lamai doron*. である。ここで、チベット語で *sangs rgyas kyi bka' lung* (仏のお言葉) にあたる訳をみると、モンゴル語の旧

訳では *burqan u/i* (仏の / 仏が), 新訳では, *burqan u ourn.* (仏の地) となっている。このモンゴル語を素直に読めば, 「西天大善自在仏の〔説いた〕天下の仏教」となり, 西天大善自在仏は称号主であるダライラマではなく, 仏教を説いた釈迦牟尼を指すこととなる。満洲語も *focihi i* (仏の) となっており, モンゴル語の旧訳と同じ解釈となる。

- 8) 'dzam gling bskal pa'i mnga' bdag gnam bskos sa yi tshangs pa dang mchod yon nyi zla zung du 'brel zhing, gser gyi 'ja' sa dang, nor bu'i tham kha sogs bla na bkur ba'i sri zhu'i lung las dang bcas sa steng rgyal bstan yongs kyi bdag po srid zhi'i gtsug rgyan du dbang bskur ba (D13-ji, p.274-2 ~ 3).
- 9) Charles Bell, p.73; 『清末十三世達賴喇嘛檔案史料選編』光緒 30 年 7 月 11 日 p.79; Fabienne, pp.354-355.
- 10) 当時, 北京の日本公使館に滞在していた寺本婉雅は, ダライラマ 13 世の側近が 13 世に対する清朝宮廷の不敬な仕打ちに激怒し, 清朝に抗議すべき否かを日本公使館に相談にきたことを記している (寺本婉雅『藏蒙旅日記』pp.289-291, 昭和 49 年)。
- 11) Charles Bell, pp.84-85; Teichman pp.13-18; 『清末十三世達賴喇嘛檔案史料選編』光緒 34 年 10 月 10 日, pp.168-169; 『徳宗実録』卷 597 光緒 34 年 10 月壬戌。
- 12) 即位式の意義については石濱裕美子 (2014) 参照。
- 13) この序文にはダライラマ 13 世が光緒帝の宮廷で臣下の扱いを受けたこと, その直後に光緒帝が没して幼帝宣統帝が即位したこと, 四川軍がラサに迫っていることなど, 悪化の一途をたどっていた清朝とチベット関係には一切触れず, あるべき高僧と施主の関係を記している。
- 14) 印璽関連の祝詞集『ペマラカの花輪』は D13-ti の内部に, 終わりがはっきりしない形ではめこまれている。印璽関連の祝詞が翌年の年頭の祝詞の直前まで続くと考えると, 計 23 作となる。
- 15) ただし, これら 3 つの布告文に記された称号には細かな異同があり, 1913 年の「自立の布告」(表 1-11) は, 上記の下線部 1 と 3 の字句が抜けており, 下線部 2 が *rdzogs kyi bdag po* という表現に変わっている。また, 同年の暮れに発布された布告文 (表 1-12) と水猿 (1932) 年の布告文 (表 1-13) でもやはり下線部 3 の一文がぬけている。
- 16) 仏法が栄え, 宝が満ち, 五欲の対象を享受し, 仏法に帰依して仏の境地を得るという四種の栄光 (*phun tshogs sde bzhi*) のこと。
- 17) 表 2-38 は, 王のみが言祝がれ, ガンデンへの言祝ぎはないが, そもそも四行という短い詩である上に, 「王」は *sa yi bdag po* (地の主) と普通名詞で表現され, 中国皇帝に冠せられる修辭もなく, かつ, ネパールの仏塔に捧げられているため, この王が中国皇帝を指すとは断言できない。

#### 参考文献

- D5N-1** ngag dbang blo bzang rgya mtsho (5th Dalai Lama). *za hor gyi ban de ngag dbang blo bzang rgya mtsho'i 'di snang 'khrul pa'i rol rtsed rtogs brjod kyi tshul du bkod pa du ku la'i gos bzang.* n.d.
- D13S** thub bstan rgya mtsho (13th Dalai Lama). *The Collected Works of Dalai Lama XIII*, 7 vols. Śāta-piṭaka-Series, 283-289. New Delhi, 1981.
- D13-chi** *mdo smad lumbi'i dga' tshal gnyis pa chos sde chen po sku 'bum byams pa gling gi dge 'dun rnams kyi blang dor khrims su bca' ba'i rim pa sogs bod dang bod chen po'i chos sde khag la stsal ba'i bca' yig gi rim pa phyogs gcig tu bkod pa 'dul ba 'bum sde'i dgongs don rnam par bkra ba'i dvangs shel me long.* D13S, vol.4, pp.3-269.
- D13-ji** *bod dang bod chen po'i ljongs su 'khod pa'i skye 'gro rnams la lugs gnyis kyi blang dor bslab bya'i rta thig stsal ba'i rim pa phyogs bkod lha'i rnga dbyangs.* D13S, vol.4, pp.271-407.
- D13-nyi** *par byang dang, thang sku'i rgyab yig, mchod rdzas su phul byang sogs 'dod gsol smon lam gyi rim pa phyogs gcig tu bsgrigs pa.* D13S, vol.4, pp.409-541.
- D13-ti** *mtshan gzims lha mo gsung byon mar gnam lo gsar 'char gyi rten 'byung snyan shal dang rten gtso khag la tham phud sogs snyan shal smon tshig gi rim pa phyogs gcig tu bsgrigs pa snyan tshig don bzang pad+ma r'a ga'i rgyan phreng.* D13S, vol.4, pp.543-678.

- D13-phi** *rten gsum rab gnas maN+Dal bcas kyi bshad pa dang, 'dus sde khag la bsnyen bkur gnang ba'i 'gyed khra'i rim pa sogs phyogs gcig tu bkod pa*. D13S, vol.5, pp.607-659.
- D13N-ka, kha** thub bstan byams pa tshul khrims bstan 'dzin. *lhar bcas srid zhi'i gtsug rgyan gong sa rgyal ba' i dbang po bka' drin mtshungs med sku pheng bcu gsum pa chen po'i rnam par thar pa rgya mtsho lta bu las mdo tsham brjod ngo mtshar rin po che'i phreng ba*. Published by thub bstan 'jam dpal ye shes bstan pa'i rgyal mtshan. 1936-1937. D13S, vols.6-7.
- DGC** sangs rgya srgya mtsho. *mchod sdong 'dzam gling rgyan gcig rten gtsug lag khang dang bcas pa'i dkar chag thar gling rgya mtshor bgrod pa'i gru rdzang byin rlabs kyi bang mdzod*. 1692-1697. 西藏人民出版社, 1990.
- ES** *Erdeni tunumal neretü yin sudur*. n.d. 『アルタン・ハーン伝訳注』風間書房, 1998.
- GSM** bla ma dam pa bsod nams rgyal mtshan (1312-1375). *rgyal rabs gsal ba'i me long*. n.d. mi rigs dpe skrun khang, 1981.
- Bell, Charles (1946). *Portrait of a Dalai Lama: the Life and Times of the Great Thirteenth*. London: Collins.
- Goldstein, Melvyn C. (1991). *A History of Modern Tibet, 1913-1951: The Demise of the Lamaist State*. Berkeley: University of California Press.
- Jagou, Fabienne (2009). "The Thirteenth Dalai Lama's Visit to Beijing in 1908: in search of a New Kind of Chaplain-Donor Relationship." *Buddhism Between Tibet and China*. Somerville: Wisdom Publication. pp.349-377.
- Nebesky-Wojkowitz, René Mario de (1956). *Oracles and Demons of Tibet : The Cult and Iconography of the Tibetan Protective Deities*. The Hague: Mouton..
- Petech, Luciano (1958). *mK'yen brtse's Guide to the Holy Places of Central Tibet*. Serie Orientale Roma, 16. Rome: IsMEO.
- Shakabpa, W. D. (1986). *Bod kyi srid don rgyal rabs: An Advanced Political History of Tibet*. 2 vols. 3rd ed. T. Tsepel, Taikhang.
- bstan 'dzin rgya mtsho t'a la'i bla ma (1965). *ngos kyi yul dang ngos kyi mi dmangs*. Tibetan Cultural Printing Press.
- Teichman, Eric (1922). *Travels of a Consular Officer in Eastern Tibet : Together with a History of the Relations Between China, Tibet and India*. Cambridge, England: University Press.
- 石濱裕美子 (2001) 『チベット仏教世界の歴史的研究』東方書店.
- (2011) 『清朝とチベット仏教』早稲田大学出版部.
- (2014) 「ジェブツンダンパ8世の即位礼にみるダライラマの即位礼の影響について」『日本モンゴル学会紀要』44.
- 小林亮介 (2012) 「辛亥革命期のチベット」辛亥革命百周年記念論集編集委員会『総合研究 辛亥革命』岩波書店, p.323.
- 欧朝貴, 其美編『西藏歴代蔵印』西藏人民出版社, 1991.
- 西藏自治区史料館編『西藏歴史档案薈萃』文物出版社, 1995.
- 中国第一歴史档案館編『清宮珍藏歴世達頼喇嘛档案薈述』宗教文化出版社, 2002.
- 中国第一歴史档案館編『清末十三世達頼喇嘛档案史料選編』中国蔵学出版社, 2002.